

第一部人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会

(第25期・第2回)

議事要旨

日時：令和3年3月6日（土）11時00分～12時30分

会場：オンライン

参加者：橋本伸也、溝端佐登史、西田眞也、日比谷潤子、吉田和彦、荻部直、神里達博、佐藤嘉倫、川嶋四郎、松下佳代、西尾チヅル、佐野正博、若尾政希、吉岡洋、岡崎哲二、宇山智彦、隠岐さや香

報告者：堂目卓生参考人

事務局：高橋雅之、小川保彦、昨間美里

議題：

(1) 前回議事要旨の確認

(2) 「人文学・社会科学を軸とした学術知共創プロジェクトの現状と展望」

(報告者：堂目卓生（大阪大学大学院経済学研究科教授）)

報告に関して質疑応答が行われた。

以下にその概要を記す（質問者・回答者の氏名は省略）

質問：社会ソリューションイニシアチブ（SSI）は研究者のインセンティブを考慮した設計になっているか。

回答：研究チームを作るところまでを主に支援している。その後は容易ではない。インセンティブとしては競争資金を獲得しやすくなることかもしれないが、参加者は意識しておらず熱意のある人が参加している。

質問：若手研究者のキャリア問題はどのように考慮されているか。

回答：専門的業績と社会貢献のバランスを取るのが難しいのは事実なので、業績評価の仕組みの構築を考える時期に来ている。

質問：到達目標は何であるか。

回答：分野、地域を越えたネットワークを広げることがまずは目的、その上でチ

ームを作る

質問：分野と分野のつなぎ目になるような人材を作ることは考えているか。

回答：多分野とつながる意欲のある専門家が参加し、つなぎのコーディネートをプロジェクトで行っている。URA あるいは科学コミュニケーターを用意している。SSI では社会ソリューションコミュニケーターを育成しようとしている。

質問：生命系と人文社会系のつながりが見えているが情報系の人々の役割は。

回答：AI と倫理など情報系の人々が参加するワークショップもある。データベースに誰が来てどう発言したか残っている。

質問：人社系が関わる研究チーム形成プロジェクトならではの特徴について情報収集しているか。

回答：意識して情報収集してはいないが、理科系は ELSI 的発想で、科学技術から出発してしまうとの印象。まずは人社系がそれに対して反応し未来の社会を考える。人文と社会の違いもこれからの課題（例：エビデンスかエピソードか）。

質問：報告資料にあった三つのテーマ（将来の人口動態を見据えた社会・人間の在り方、分断社会の超克、新たな人類社会を形成する価値の創造）の選択基準は

回答：文部科学省学術分科会人文学・社会科学特別委員会の文書を参考にしている。

コメント：ELSI 的なものが力を持ちやすい状況では人社系主導のこうした試みが存在感を持つことは必要

質問：深く関わってくれる参加者を募ることと裾野を広げることをどうやって両立しているか。

回答：現在は始動したばかりなので事前準備としてロコミでの参加依頼を行ったり、類似の事業を行う組織との連携をはかるなどネットワーク作りを入念に行ったりしている

質問：誕生した研究チームを評価する基準はあるか

回答：フォローアップしてチームの内容や質で判断したいが、外形的な評価基準（チーム数や獲得資金規模基準）がなされる可能性がある。それを念頭に置きつつも一回限りで終わってしまうことのないようにしたい。

質問：学術会議としてこのような大型資金の成果をどのように評価するのかに

ついて提言するべきではないか。

回答：提言は出せるが、かなり長期的な見通しが必要。

質問：人社系については今のところ組織作りとファンディングが上手くつながってないので、その仕組みを考えるために JSPS が今回の学術知共創プロジェクトを支援したという理解でいいか。

回答：そう考えてよいが、あまりそれを直接つなげて考えてしまうと申請書ありきのチーム作りになり、外形的な評価基準に流されていくことが懸念される。すぐにファンディングという発想ではないチーム作りもサポートしていきたい。

質問：先導的人文社会のプロジェクトの経験では、トップダウン型のものは時間の設定が難しいし、ELSI 型のものに引きずられがちだった。JSPS も模索中ということか。

回答：そう考えられる。その上で、世の流れに追い立てられている中で、人社系の持っている異議申し立て、解放、権力や財力との距離の取り方の役割を検討しようとしている。

コメント：今回の学術知共創プロジェクトに関しては事前に文科省が若手アカデミーにヒアリングにしている。メリットがないと参加しないとの反応であり、若手研究者には受け止めきれなかった。ある程度の経験を持つ研究者でないと対応出来ない課題。

(3) その他

特になし